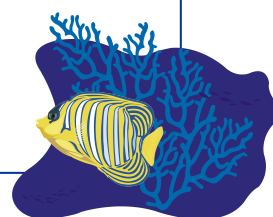


CNAC海あそび安全講座 指導者養成セミナー 実施報告書



- 開催日：令和2年7月7日(火)～7月8日(水)
- 開催地：南房総市大房岬自然の家
- 主催：NPO法人 海に学ぶ体験活動協議会(CNAC)



1. プログラム

「令和2年度 CNAC海あそび安全講座指導者養成セミナープログラム」	
宿泊：大房岬自然の家	
時 間	項目・内容
令和2年7月7日（火）	
12:40	受付開始
13:00	開会
	代表理事挨拶
	資料・スケジュール確認 注意事項及び施設利用説明
	オリエンテーション 講師紹介 自己紹介
13:20	今回の研修内容の趣旨説明
	海あそび安全講座の経緯
	海辺のリスクマネジメントの概要
13:50	安全講座のモデル講座
	海の楽しさと危険性
	・紙芝居、安全冊子の使い方紹介KYT（危険予知訓練）
	落水したときの対処法
14:40	着替え、海辺に移動
15:00 (90分)	安全講座実技指導（実習）
	説明、準備体操
	落水した時の対処法
	・ういてまて
	一人で浮いてみる
	ペットボトルを使って浮いてみる
	いろいろな浮力体を使って浮いてみる
	落水者を発見したときの対処法
	・ペットボトルレスキュー
	・運搬法
16:30	セミナー会場に移動、シャワー、着替え
17:15	実習部分を屋内で行う場合の工夫
	海洋実習の振り返りと補足 工夫点の確認等の意見交換
	ペットボトルレスキューにおけるロープワークの確認
	小学校での海あそび安全講座の開催について
18:45	質疑応答
19:15	1日目 終了
19:30	夕食
21:30	入浴
22:00	消灯
令和2年7月8日（水）	
7:30	朝食 片付け 荷物移動
9:00	海あそび安全講座のKYT（キケンくん探し）実習
10:15	海あそび安全講座の運営についてのマニュアル確認
10:45	海辺の体験活動におけるリスクマネジメント概論
11:30	参加者感想発表 終了証授与 アンケート記入
12:00	セミナー終了 昼食（弁当）後、解散

青枠：海中実習

2. 1日目(令和2年7月7日)



JR 富浦駅 外観



JR 富浦駅 ホーム名所案内 自然の家記載あり



大房岬自然の家 外観



玄関 ※手指消毒液



部屋 ※12 人部屋を 2 名で使用



食堂 ※ビニールカーテン



現地確認



受付時 ※体温測定(非接触型体温計)

※コロナ感染症拡大防止対策

1日目(令和2年7月7日)



会場設営 ※3人掛け椅子を最大2名で使用



事務局打ち合わせ ※マスク着用



三好代表講義



小池副代表講義



受講状況



いざ海へ



準備体操



浮力体など

1日目(令和2年7月7日)



まずは支えてあげて浮かぶ練習



一人でも浮いていられるかな？



ペットボトル



レスキューチューブ



ビニール袋



タッパー



クーラーボックス



ランドセル



いろんなもので浮いていられることがわかりました



つぎにペットボトルレスキューを体験



ペットボトルに紐を結び



海に投げます



溺れている人の少し奥を狙って



陸に引き揚げた後 1人で救助



2人で救助 ver1



2人で救助 ver2

1日目(令和2年7月7日)



海から戻って講義再開 実習の振り返り



紐の結び方を学びます



もやい結び難しい...



受講者どうして教えあっています



海あそび安全講座の開催方法について

1 日目は、CNAC の考えるリスクマネジメントの講義から始まり、海あそび安全講座の進め方を学んだ後、海に行き、落水時および落水者を発見した時の対処法を体験し、その体験を踏まえた振り返り、安全講座の開催方法を学びました。

座学→実習→振り返りと、大変理解しやすい内容となっていました。

2 日目につづく。

3. 2日目(令和2年7月8日)



実演に向けての説明



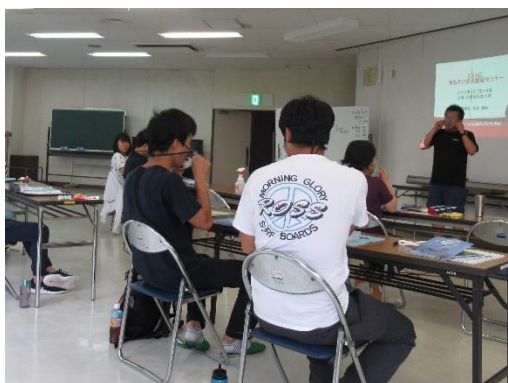
グループごとに実演 グループ A



グループ B



グループ C



講師の使用したブルマスクの着用



リスクマネジメントについて



修了証授与

2 日目は、海あそび安全講座の冊子を活用した紙芝居を使用して、グループごとに実演しました。実際に指導するイメージができたとともに、客観的に評価しあうことで自分のクセや改善点が見つかり、大変有意義な時間となりました。

4. 感想

- ・実際に自分が体験してみないと学べないものがあり、自分が理解していないと相手への説明も上手くできないことが実感できた。海あそびを行う前にどんな危険がひそんでいるか考え、マニュアルを作成するなど、情報共有することを意識して事故を防いでいきたい。
- ・危険そうだからやめておこうではなくて、危険を知り、対処法を知ることで、できることが増えていく。講習で学んだことを定着・向上させるために、実践を積む必要があると感じた。
- ・海といっても砂浜、岩場、海中など、場所によって危険が異なるため、どのようにリスクマネジメントをするのかを考え、指導者としてリスクをわかりやすく伝えられるようになりたい。
- ・安全に遊ぶためには、そのリスクを知らないとならない。事故は無知から。肝に銘じます。
- ・座学と実技を学ぶことで、情報を知識に変えることができた。知識を得たことで、今後行動できることが増えると感じた。
- ・実際に海の中に入ってからの実習が印象的だった。知識はあっても実際できるかどうかは全く別なので、自分が海の中でどれだけ動けるのかがわかってよかった。
- ・自分の意見を発表することが何回もあり、様々な意見を聴くことができ良い経験を積めた。
- ・マニュアルも見やすく、テキストに従って進行していただけたので理解しやすかった。また、一つの質問に120%で回答いただけて満足でした。
- ・「海は危ない」というイメージが先行して、今まで海を怖がっていた。海のリスクと回避・対処方法を知り恐怖心が薄れたので、自分以外にも海が怖いと思う人たちに、それは当然だし悪いことではないけれど、海について知れば楽しくなるよって伝えたい。

5. 総括

本セミナーは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を念頭に置いて実施されました。ガイドラインを作成し、3密を避けた講義内容、例えば参加者の座席は並列とし、1m以上離す、実習では密接する場면을短時間で必要最小限とするなど、工夫した運営となりました。参加された皆様にもお気遣いいただき、施設の方々に多大なご協力をいただきながら、無事にセミナーを終えることができ感謝申し上げます。

降雨も心配されましたが、多少風は吹いていたもののほぼ予定通り海での実習を行うことができました。講師の丁寧な教え方と、参加者の熱意のおかげで、活発な意見交換がなされるなど、大変活気のあるセミナーとなりました。

参加者の皆様におかれましては、本セミナーで学んだことを活かし、安全で安心な海あそびを広めていただきたいと思います。